



# とびうめ 通信

No.3 2009.2

## HEAD NEWS

### 先進的モデルをめざす 大学院でのプロジェクトマネジメント教育

本プログラムでは、プロジェクトマネジメント教育を初級、中級、上級と3つのレベルに分けて集中講義形式で提供しています。前号でお伝えした9月の初級編に引き続き、12月には中級編、上級編を相次いで実施しました。

#### 自ら考える力を養う中級編

中級編は12月8日(月)から11日(木)まで4日間にわたって開講。朝から夕方まで連日6時間以上、文字通りの「集中」講義です。講師は初級編と同じく、NPO法人日本プロジェクトマネジメント協会から渡辺 貢成氏を招聘。プロジェクトマネジメントについて本格的に学びたいという意欲的な学生8名が参加しました。

初級編は、与えられた特定の使命を達成するためにいかに物事を進めるべきか、その手法を知ることが目的でしたが、中級ではさらにその上流工程の習得をめざしています。すなわち、全体の「あるべき姿」を描き、その実現のために解決すべき課題をプロジェクトという形へ落とし込む、企画段階での知識・スキルです。



中級編の様子。時間が足りず、昼休み返上で発表の準備を続けた

座学中心だった初級編とはがらりと趣が異なり、中級編の特徴は、「考える講座」であること。講義初日の冒頭で、4日間の最後に行われるグループ演習のテーマが「中流高等学校の少子化対策」であると提示されます。それまでの講義のなかで、この演習に挑むための知識やツールを自ら「発見」していきなさいという趣向なのです。

グループ演習は3日目の15時頃から始め、4日目(最終日)の昼に発表。受講生たちは講義で学んだことを駆使し、短い時間のなかで、何とかまとめあげました。「地域と世界の連携」という具体的なアイデアを生み出した1班に対し、2班はプロジェクト化に必要な関係要素をほとんど漏れなく列挙。対極的な内容でしたが、両者とも自分たちのチームにはないすばらしさを讃え合いました。

#### 実践力を培う上級編

その1週間前、12月1日(月)から6日(土)まで東京キャンパスで行われた上級編には、MOTコースの11名が参加。NPO法人PCM Tokyoの大迫 正弘氏が講師を務めてくださいました。



東京キャンパスで行われた上級編の様子。みんな積極的だ

講座の中心は、受講者が仕事で抱えている実際の問題を取り上げ、それを解決するためのプロジェクトをグループワークで計画するという実践的なもの。3グループに分かれ、それぞれ取り組んだのは「顧客とのコミュニケーション不足のために要件定義が十分にできない」、「優秀な人材の取り合いになり、プロジェクトチームが形成できない」、「職場に活気がない」といった生々しいテーマでした。

日本の大学でプロジェクトマネジメントを教えているところはまだまだ多くはありません。今年度の講義はこれで終わりますが、来年度以降もさらに先進的モデルを目指し、充実したプロジェクトマネジメント教育を行っていく予定です。